

社会－3（地理的分野） 仮説を立てて協同で課題追究し、その結果を白地図にまとめる事例
【学習活動の概要】

1 単元名 なぜオセアニアは、ヨーロッパに代わってアジアとの結び付きが強まってきたのか。

2 単元の目標

オセアニアに関わる学習課題について、多面的・多角的に追究・考察し、州の地域的特色を理解するとともに、とらえた特色を適切にまとめ、表現する。

3 単元の評価規準

【社会的な思考・判断・表現】

- ・オセアニアとアジア諸国との結び付きについて、多面的・多角的に考察している。
- ・オセアニアの地域的特色について考察したことを、その過程や結果を含めて適切に表現している。

【社会的事象についての知識・理解】

- ・移民や貿易、産業動向など、オセアニアとアジア諸国との結び付きの強まりを理解している。
- ・オセアニアの地域的特色や地域の課題などを理解し、その知識を身に付けている。

なお、本単元は、内容のまとめりである「世界の諸地域」を構成する六つの単元の一つであることから、他の五つの単元の評価と総合して四観点で評価しており、この単元の評価規準は、四観点のうち二観点のみとして重点化を図っている。また、この事例では「(カ) オセアニア」の単元を、「世界の諸地域」履修上、その後半部に位置付けており、その地誌学習の習熟に応じた評価規準を設定して、他の単元の評価規準との系統化を図っている。

4 単元の概要

本単元は、新学習指導要領社会科地理的分野の「(1) 世界の様々な地域」の「ウ 世界の諸地域」の「(カ) オセアニア」を指導内容として構成したものである。

オーストラリアを中心に、オセアニアとアジアとの結び付きに関わる学習課題について、問題解決的な学習展開を通して地域的特色を理解させることを目指した単元を構成している。

5 主な学習活動

(1)単元の展開（全6時間）

段階	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 (つかむ)	学習課題の把握(2) ・オセアニアのあらまし ・アジアとの結び付き ・学習課題の設定 「なぜオセアニアは、ヨーロッパに代わってアジアとの結び付きが強まってきたのか。」	・学習課題の背景となるオセアニアのあらましに関して、資料を基に自分の言葉や地図にまとめさせる。 ・移民の出身地や貿易相手国の変化の統計資料の読み取りから、アジアとの結び付きを強化している事実を理解させ、課題意識を高めさせる。
第二次 (調べ・追究する)	学習課題の追究(2) ・資料の収集 ・仮説の検討(個人) ・少人数グループでの話し合い	・既習事項を基に、地図や統計資料を活用して学習課題について仮説を立てさせ、資料を根拠に論理的に説明させる。
第三次 (解決する、深化する)	学習課題の解決と深める学習(1:本時) ・オーストラリアがアジアとの結び付きを強めた理由とオーストラリア社会への影響 ・追究したことの発表 ・学習課題の解決 ・学習課題について深める学習	・発表グループには地図や資料を活用し仮説を説明させ、さらに他のグループとの意見交換をさせることで仮説の修正を図らせる。 ・学級全体で仮説について修正させ、学習課題を解決させる。 ・新聞記事等を活用し学習課題を深めさせる。
第四次 (まとめ)	オセアニアの学習のまとめ(1) ・オセアニアの地域的特色を表すキャッチフレーズを考え、学んだことや特色を白地図に工夫してまとめる。	・州の特色を的確に表すキャッチフレーズを考えさせ、白地図に工夫して表現させる。

(2)本時の学習（5/6時間）

ア 題材 アジアとの結び付きを強めた理由とオーストラリア社会への影響

イ 本時のねらい

オーストラリアがアジアとの結び付きを強めた理由とオーストラリア社会への影響を各種資料を活用して多面的・多角的に考察する。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

中学校学習指導要領の第2章第2節社会第2〔地理的分野〕の1(4)には「様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。」と記され、その解説中には言語活動の充実に資するものとして、「地図の読図や作図などの学習を通して思考力や表現力等の育成を図る」ことが明示されている。

本事例で示した「(1) 世界の様々な地域」の「ウ 世界の諸地域」では、人々の生活と関連した主題を設定し、地誌的な学習を通して各州の地域的特色を理解させることが求められている。そこで本単元では、教師の設定した学習課題の把握、追究、表現活動などの問題解決的な学習方法を取り入れることで言語活動を充実させ、オセアニアの地域的特色を理解させることとした。さらに地域の課題や解決策について意見を交換する学習を取り入れることで、言語活動のより一層の充実を図りたいと考えた。

【言語活動の充実の工夫】

① 学習課題の把握

- ・ 説明的、論理的な資料から、学習課題を的確に把握する。
⇒ オーストラリアの貿易、移民等に関する統計資料を基に、1970年代以降、アジアとの関係を深めてきた事実を十分に理解させ、学習課題を的確に把握させる。

② 学習課題の追究

- ・ 課題解決に必要な情報を収集し、客観的な根拠に基づいて論理的に自分の考えを書く。
⇒ 学習課題について、地図や各種資料を活用し、根拠を基に仮説を考え、ワークシートに記入させる。その際、既習の北アメリカ、アジア、ヨーロッパの各州で学んだ地域的特色をとらえる視点や方法について、意識的に活用していくよう指導する。
- ・ 少人数グループによる話し合い活動や発表活動を充実させる。
⇒ 個人の意見を基に少人数グループで話し合い、熟考・評価をして、適切と思われる仮説(解答)を考えさせる。仮説を短い文章でカードに記入させ、そう考えた理由をワークシートにまとめさせる。
⇒ カードを基に学級全体で発表活動を行わせ、多くの人の意見を共有する機会を設定することで、自分の考えを深め、地域的特色をより多面的・多角的に考察させる。

③ 学習課題の解決と深める学習

- ・ 考えを明確にして、説得力をもって論理的に伝える。
⇒ 発表グループには、根拠となる資料を示しながら説明させ、他グループにも積極的に質問や補足説明をさせる。
- ・ 各グループの発表を基に、学習課題の解答となる理由を整理する。
⇒ 発表カードに示された内容を、図1のようにKJ法を用いて関連性を踏まえて整理し、学習課題を多面的・多角的に考察させることにより解答を導き出させる。
- ・ 課題の解決を図り、さらにその影響について考える。
⇒ 人々の生活に目を向けさせ、これまでの学習成果を基に多文化社会のメリットと課題について気付かせることで、地域の将来像を考えさせる。

④ オセアニアの学習のまとめ

- ・ 学んだことを的確に表現し、発信する。
⇒ 州の特色を正確に分析させ、図2のようにキャッチフレーズ的な短い文章を工夫して考えさせるとともに、その理由を書かせることで、分析、思考、判断を伴う小論文的な文章を書く力を身に付けさせる。
⇒ とらえた特色や学んだことを、図3のように、白地図に工夫してまとめさせることで、読図力・作図力などの地理的技能の向上につなげさせる。

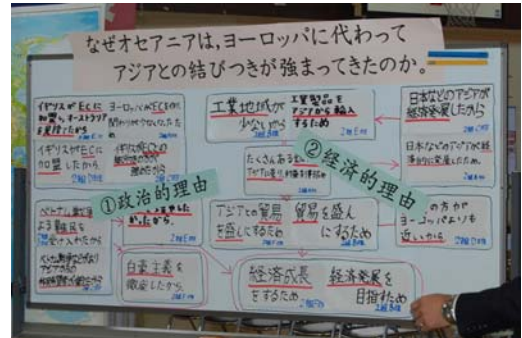


図1 発表カードを整理した関連図

オセアニア州の学習 最終レポート
(3)組(17)番 名前()

授業を通してとらえた「オセアニア」の地域的「特色」を短い文章で表現してみよう！(キャッチフレーズ的な短い文章で)

寛大な地域 オセアニア

そのように考えた理由は

オセアニアの中心にもいえるオーストラリアは、自衛主義をやめてからというもの、多くの物資を受け入れるようになり、また特にアジア系の移民を受け入れるようになり、他のオセアニア諸国も同じようなことが言える。つまり、人種から生まれる対立も少なく、むしろ多文化主義という考え方がいかに重要だと思ふたのでこのキャッチフレーズにしました。

オセアニアの学習を通して「わかったこと、発見したこと、びっくりしたこと、始めて知ったこと学んだこと！」などを書いてみよう。

オセアニアといふは、綺麗な海、美しいクリスマス、緑豊かな自然といふことか、思い浮かぶ。全く、北アメリカやアジア、ヨーロッパ等と比べてもその中で最も影響の薄い存在で、その多文化社会でオセアニアについて学習して初めて知ったことが多すぎて驚きの連続。オーストラリアは、アジア系移民を制限する代わりに、自衛主義をやめてから様々な物資を受け入れ、また、その文化までも受け入れて多文化社会を造りだしていきまは、私はこの多文化主義という考え方が素晴らしいと思ふ。他国の文化と自国の文化と共に、融け合っていくのに、誰か反対しない。シェンゲン協定の言語による人種によって生まれる差別や対立も、多分無いからオーストラリア(オセアニア)の人々ほど平和な感じがする。それにとても深層心しました。また、自衛主義の撤廃や、アボリジニの権利の回復、中国や日本などとの貿易などから、オセアニアは現在アジアの巨龍と徐々に結びついており、また、その人々も、アジアとオセアニアは、もともと親密な関係になっていて私は考えます。

図2 最終レポートの記入例

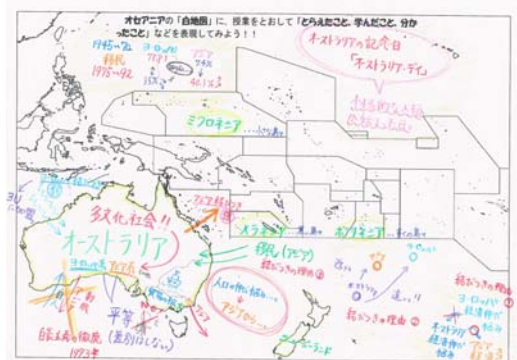


図3 白地図でのまとめの例

